

## 小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。  
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	夏の風物詩である「花火」をプログラミングの作成と共有
学年	小学校第3学年
目標	身の回りで見つけた「夏」について、文章を書こう。
教材タイプ	ビジュアル言語（授業内での活用）
使用教材	ビスケット
環境	児童1人で1台の端末を使用
都道府県	徳島県
実施校	伊沢小学校
学習活動の概要・児童の様子（プログラミングの活動を中心に記載ください。）	題材は、「身の回りの夏を紹介しよう」である。学習内容は、「子どもたちのこれまでの経験を基にして短い文を作るというものである。従来であれば、導入の部分でそれぞれの夏の体験を発表させるが、子どもたちにプログラミングで花火を作らせ、それを共有することにした。自分の体験をプログラミングで紹介し合うことで、周りの子たちの体験をより擬似的に体験させることができると考えた。そして、それぞれの違った花火を見あうことで、子どもたちは人それぞれの「夏」があるということを知ると同時に、自分の経験を振り返ることができていた。プログラミングする前に構想シートに書き込ませたため、文章を論理的に作成しいつもよりスムーズに文章を書けていた。プログラミングを使用することで、それぞれの「夏」があることを実感すると共に、これまでの自分の経験を振り返って文章が書けていた。また、思ったようにタブレットが動かなかったり、ネット回線があまりよくない中、子どもたちは集中して取り組んでいた。
成果と課題	プログラミングを取り入れたことで、花火以外の文章の作成にも、波及効果があったと感じた。